

# COVID-19 禍における大学生の存在価値、意欲と、 日本的タイプ A 行動との関連

○内島央貴・井鈴木佳奈・田中秀樹

(広島国際大学大学院心理科学研究科)(広島国際大学健康科学部)

## 研究の目的

COVID-19 禍によって、大学生の心理状況は大きく変化している。日本赤十字社(2022)の調査によると、2021年9月の緊急事態宣言解除までの期間におきた若者の心の変化について調査した結果、何もしたくなくなる、無気力と感じている大学生は49.0%、孤独を感じ1人であるのが不安と感じている大学生は35.0%など精神的に追い込まれた大学生が多く存在していることを報告している。

生きがい感とは、生活充実感、自分の生活内容が豊かに充実している感じであるが、本研究では、生きがい感の一部である存在価値と意欲を用いた。存在価値とは「その存在を意義あるものとして認めるような、人や物事のもつ価値」、意欲とは「進んで何かをしようとする、張り切った心」を示す。一方、「日本的タイプ A 行動」は、瀬戸ら(1997)が提唱したものである。日本人は欧米人よりも敵意性が低い、仕事中心主義な面が強いといった日本人の文化や性格傾向のことである。

本研究では、COVID-19 禍によって、大学生の心理状況は大きく変化したことに注目し、COVID-19 禍における大学生の存在価値、意欲と、敵意行動、完璧主義、日本的ワーカホリックとの関連を検討することを目的とした。

## 方法

### 研究対象者

同意が得られた大学生 203 名(男性 122 名、女性 81 名)のデータを分析対象とした。

### 測定内容

生きがい感尺度 近藤・鎌田(1998)が作成した尺度で4つの下位因子のうち、「存在価値」と「意欲」を用いた。択一3件法である。

日本的タイプ A 行動評定尺度 瀬戸ら(1997)が作成した尺度で「敵意行動」、「完璧主義」、「日本的ワーカホリック」の3つすべての下位尺度を用いた。択一6件法である。

## 結果と考察

図1は存在価値、意欲と日本的タイプ A 行動の相関分析の結果である。存在価値と敵意行動に有意な負の相関、存在価値と完璧主義、存在価値と日本的ワーカホリックに有意な正の相関がみられた。意欲と完璧主義、意欲と日本的ワーカホリックに正の相関がみられた。

表1. 存在価値、意欲と日本的タイプA行動の相関分析

変数	存在価値	意欲	敵意行動	完璧主義	日本的ワーカホリック
存在価値	—				
意欲	0.725**	—			
敵意行動	-0.141*	-0.059	—		
完璧主義	0.441**	0.387**	0.039	—	
日本的ワーカホリック	0.367**	0.337**	0.121	0.413**	—

注.\* $p < .05$ , \*\* $p < .01$

また、存在価値が高い人は敵意行動得点が低く、完璧主義得点と日本的ワーカホリック得点が高いこと、意欲の高い人は、完璧主義得点と日本的ワーカホリック得点が高いことがわかった。

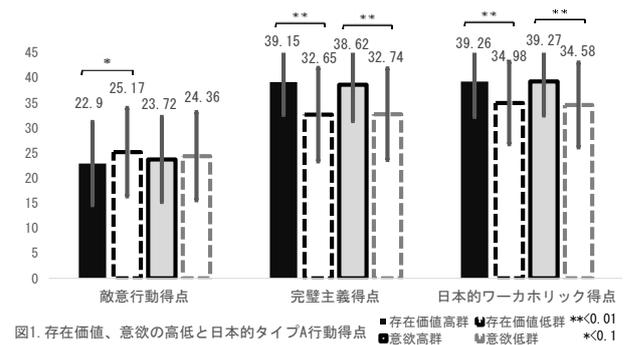


図1. 存在価値、意欲の高低と日本的タイプA行動得点

さらに、存在価値や意欲を高めるために重要な具体的な行動を検討した結果、「几帳面である」ことが存在価値の向上に重要であることがわかった。整理整頓を日頃から徹底することや、タスクなどを丁寧にこなすことが重要であることが示唆された。一方、意欲の向上には、スモールステップから徐々に成功体験を積み重ねていくことが重要であると示唆された。